

子どもの貧困や孤食が社会問題となる中で、子ども食堂が全国的な広がりを見せている。子ども食堂は、地域社会の中で、学校や家庭以外にも一つの居場所、もう一つのつながりを作ろうとする試みである。ここでいうもう一つのつながりとは、従来の地縁、血縁とは区別される強制力のない新しい緩やかなつながりである。この居場所・つながりの媒体が「食」である。

ここでは、2016年7月23日から2017年3月31日までに、中京大学現代社会学部成ゼミ3年の学生とともに実施してきた「愛知県における子ども食堂に関する調査」の結果を報告する。調査手法は、①ボランティアを通じての参与観察（これまで延べ50ヶ所以上）、②聞き取り、③フェイスブックとメッセージングを使つての取材、④ネット検索、⑤新聞記事検索（朝日、中日）、⑥書籍（『子ども食堂をつくろう！』など）などである。

まず、「愛知県子ども食堂マップ」をご覧いただきたい。名古屋市内が18ヶ所、その周辺地域が15ヶ所で合計33ヶ所が確認できた<sup>2</sup>。これまでの調査で発見された興味深い知見の一つは、名古屋市内でも南区・港区・中川区・中村区など地域のつながりが強い地域には、子ども食堂が少ないという点である。これは、おそらく町内会、婦人会、子ども会など地域のつながりで対応できてしまうか、あるいは、対応しようとするからだと推測される。裏返せば、今の時代には、子育て中の疲れたお母さんや孤独なおじさんが気楽に立ち寄ってもいい、地域の、緩やかなつながりが求められていて、従来の堅苦しい、強制力のあるつながりは敬遠されるからであるとも考えられる。これは、愛知県が全国トップレベルの自治会・町内会の加入率を誇っている一方、「全国最低のNPO法人数」を記録していることとも関連していると推測している。

次に、「愛知県子ども食堂カレンダー」をご覧いただきたい。子ども食堂を開催する日にちの特徴としては、第1に、土曜（19回）と金曜（13回）の開催が多いこと、第2に、日曜と水曜が12回で多いことが挙げられる。また、第3に、お昼が16回、夕食が64回であること、第4に、平日は夜のみ、土日にお昼開催が集中していることが挙げられる。

子ども食堂の料金の特徴は次の4つである。第1に、大半が子どもと大人で料金を分けていること。第2に、子どもが無料であること、これは半数程度である。第3に、大人の料金は寄付制が多いこと。第4に、小学生以下と中学生以上で料金を分けていること、これは数か所ある。

愛知県子ども食堂を支える組織的基盤は大きく5つに分けることができる。第1は、NPOであり、子ども食堂のネットワークの結節点となっていることが多い（10ヶ所…こどもキッチン、みんなでおしゃべり楽しいごはん、長久手、せと・まんぷく、マジかぞく、はらぺこ、WAIWAIのわみ塾、びほく、みんなのごはん、尾張一宮）。第2は、友人・知人のネットワーク（8ヶ所…みずほ、天白、おっかわ寺子屋ちよっこり、にっこにこ、つしま、ふれあい、ほんわか、つな）、レストラン（5ヶ所…ちくさ、ガンダム、小牧、心の子どもごはん、コミュニティ食堂）、宗教施設（4ヶ所…マンナ、なかよし、平田寺、子どもハウス（密蔵院））であり、それが拠点になっている。第3は、NPO・ボランティア団体と地縁型組織が協働しているところである（3ヶ所…八社、さばんなカフェ、日進絆）。第4は、生協が基

盤となっているところである。(2ヶ所…わいわい、くろかわ)。第5は、社会福祉法人で1ヶ所である(よつ葉)。

# 愛知県子ども食堂マップ

1. ちくさ子ども食堂(千種区)
2. わいわい子ども食堂(北区)
3. くろかわ子ども食堂(北区)
4. マンナ子ども食堂(西区)
5. よつ葉子ども食堂(西区)
6. 八社子ども食堂(中川区)
7. こどもキッチン(中区)
8. ガンダム食堂タムラ& mitocafe(昭和区)
9. みずみみんなの食堂(瑞穂区)
10. なかよしごはん(熱田区)
11. みんなでおしゃべり楽しいごはん  
(NPO法人秀斐の会、中川区)
12. ほんわか食堂(南区)
13. マルちゃんゴー(南区)
14. 心の子どもごはん(守山区)
15. つな食堂(守山区)
16. さまんなかふえ(子どもNPO、緑区)
17. 天白子ども食堂(天白区)
18. こども食堂にっここ(天白区)
19. 平田寺子ども食堂(北名古屋市)
20. 日進絆子ども食堂(日進市)
21. 長久手子ども食堂(長久手市)
22. せと・まんぶく子ども食堂(瀬戸市)
23. マジかぞく食堂！瀬戸まち空家再生プロジェクト(瀬戸市)
24. はらべこ食堂(春日井市)
25. 子どもハウス(春日井市)
26. 小牧子ども食堂(小牧市)
27. ひまぐ子ども食堂(岩倉市)
28. のわみ相談所(一宮市)
29. 尾張一宮子ども食堂(NPO法人バボナカレ、一宮市)
30. つしま子ども食堂(津島市)
31. おっかわ寺子屋ちよっこ(半田市)
32. みんなのご飯食堂(れんこん村めわくネットワーク、豊浜市)
33. 大府子ども食堂 ふれあい食堂(大府市)

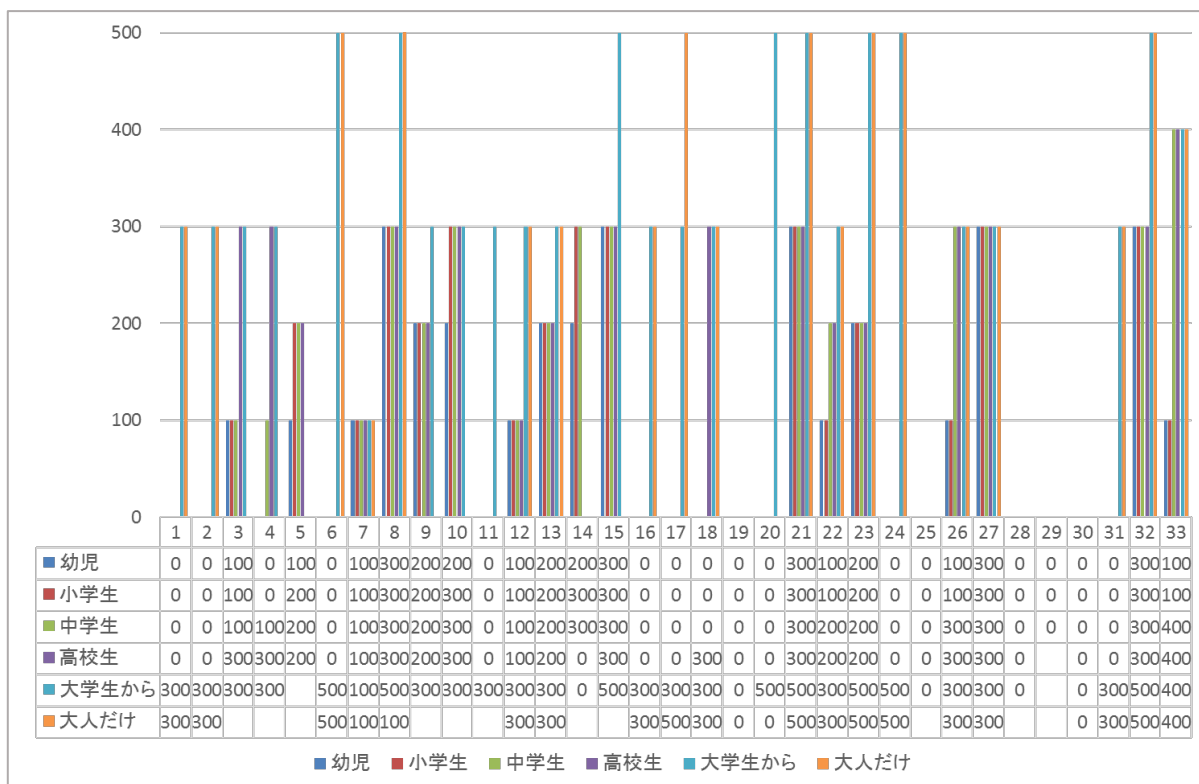


資料提供者:名古屋子ども青少年局子ども未来課、コープあいちの向井忍氏、わいわいの杉崎伊津子氏、他

## 愛知県子ども食堂カレンダー

	日	月	火	水	木	金	土
第一	29. 18:00~19:00	7. 16:00~17:30 13. 18:00~21:00	13,29. 同上	2. 17:00~19:00 13,29.同上	13,29. 同上	28. 17:00~20:00(学習 支援含む) 13,29. 同上	31. 10:00~15:00 22. 12:00~ 14. 18:00~20:00 29,同上
第二	20,9:00~16:00 26,11:00~14:00 19,12:00~14:00 30,17:00~ 29,同上	13. 同上	32. 18:30~ 13,29. 同上	21. 17:00~19:00 13,29.同上	13,29. 同上	28,13,29. 同上	29,同上
第三	15, 27. 11:00~13:00 9. 11:00~15:00 29. 同上	7,13. 同上	13,29. 同上	13,29. 同上	13,29. 同上	24. 17:00~19:00 28,13,29. 同上	23, 10:00~14:00 16, 10:00~15:30 18, 11:30~13:30 33, 12:00~13:30 12,24, 12:00~14:00 5, 16:30~18:30 14,22,29,31, 同上
第四	1. 17:00~19:00 29. 同上	13. 同上	8. 18:00~20:00 13,29. 同上	4, 21. 17:00~19:00 13,29. 同上	13,29. 同上	28,13,29. 同上	3,15. 17:00~19:00 25. 土曜 13:30~日曜 16:00 29,同上

6. は隔月1回夜、10. は毎月7のつく日の夜17:30~19:00の3回、17. は月1回のお昼



続いて、これらの子ども食堂の共通点について検討したい。第1に、ほとんどが居場所としての子ども食堂を目指している点である。経済的に困窮状態にある子どもだけが来る場所ではなく、誰でも立ち寄ることができる居場所を心がけている。第2に、ほとんどの子ども食堂が、フェイスブックやブログなどのSNSを使って広報をしている点である。第3に、学生ボランティアが活躍している点である。子ども食堂の多くに大学生がボランティアとして参加している。また、小中学校、高校の生徒がボランティア参加しているところや、不登校の生徒や障害を持っている子どもがボランティアとして参加しているところもある。第4に、新しく子ども食堂を開こうとする個人やボランティア組織は、既に開いている子ども食堂を見学し、運営や参加状況などを学習している点である。第5に、複数の子ども食堂に食材、食べ物を寄付している組織があるという点である。こども食堂ネットワーク、くらしを耕す会、おてらおやつクラブ、カンパイチャリティ（マルト水谷）、セカンドハーベスト名古屋（フードバンク）、ヤマザキ製パン従業員組合などが寄付をして協力をしている。

愛知県の子ども食堂の全体的な特徴は、第1に、ほとんどが2016年から開始して、比較的に新しい動きであるということである。2015年から子ども食堂を開催しているのは長久手（2015年7月）、わいわい（2015年11月）、ちくさ（2015年12月）の3ヶ所だけであり、残りの30箇所は2016年からである。第2に、他の地域と比べ、愛知県の子ども食堂の数が少ないということである。例えば、滋賀県（人口140万人）は43ヶ所<sup>3</sup>であるのに対して、愛知県（人口750万人）は30ヶ所ほどである。ただ、他地域同様、現在、愛知県の子ども食堂数は急速に増えている。第3に、人口10万人当たりの県別NPO認証法人数が全国一少ない愛知県（24.8、東京都71.1、京都府51.3、平均38.7）において、NPOやボランティア団体が基盤になって子ども食堂を運営していることである。第4に、広報、食材の寄付、開催場所の提供などで愛知県の子ども食堂を支えているのは自治会・町内会、子ども会、民生

委員、コミュニティセンターなどの従来の地縁型組織であることである。なお、2016年4月1日現在、名古屋市の町内会推計加入率は全市で74.4%である。第5に、「コープあいち福祉基金」、それぞれの市や区の「社会福祉協議会の助成金」、「赤い羽根共同募金」、「子どもゆめ基金」、「日本フィランセラー協会の助成金」、「せと市民活動応援補助金」、「全労済地域貢献助成事業の助成金」などの助成金と一般の寄付が、子ども食堂を開設し、また運営していく上で財政的基盤となっていることである。

一方、共通する悩みや課題も抱えている。第1に、ほとんどの子ども食堂の主催者が口を揃えているのが、本当に子ども食堂を必要とする人に届いているのかが不安であるという点である。まず、子ども食堂の存在が、それを必要とする人に届いているかどうか（広報）、また、必要とする人が来場してもらえているかどうか、これらについて不安を抱えている。第2に、毎回子ども食堂に参加する人の数が読めないという点である。これは、子ども食を利用する人数も、それを支えるボランティアの人数も毎回変動していることにより、運営上の不安定化が生じていることが背景にある。第3に、メニューのマンネリ化である。その原因の一つは寄付してもらった食材で食事メニューを考えるためであり、もう一つは、毎回子どもたちが好きなメニューをつくることできないからである。第4に、子どもの料金を無料にしたいが、財政的に難しいという点である。第5に、すべての子ども食堂が、①広報、②場所、③食材、④スタッフ、⑤開催回数、⑥資金の面で、継続に不安を抱えているという点である。

「最初は貧困がターゲット。だが貧困という言葉を使いたくはなかった。貧困と言ってもお金だけではなく、夫婦の関係や親と子の関係など様々。やっていくうちに色々な貧困があると意識が変わった。全てにおいて子どもを守ることができたら...。」

これは、「ちくさ子ども食堂」代表の加藤三重子さんが私たちの取材に対して語った言葉である<sup>4</sup>。子ども食堂は、家族や学校ができないことを「地域社会の輪」でやろうとしている。それが提供するものは、居場所である。この居場所が提供するものは、食事を通じて「栄養」であり、また学習支援などで「知識」である。さらに、子ども食堂は、多様な遊びやゲームなどを通じて、体験や交流などである。ただ、子ども食堂が提供するものとして強調しておきたいのは、一緒に過ごす「時間」である。ミヒヤエル・エンデの『モモ』で「時間どろぼう」の物語のように、効率性を重視し、多忙な現代社会において、子ども達が多様な世代の人と過ごすことにより、育まれるものは多いのではないだろうか。現在のところ、子ども食堂は、まだ「名のない関係性」である。ただ、まだ名前がない関係性だが、私たちが今の時代を生きていくために必要な関係性、すなわち、学校でも家でもない「第3の居場所」である。この名もなき関係性を子ども食堂は、緩やかにつながり、多様な種類のつながりを混合しながら、重層的につなごうと張り巡らす仕組みを、さまざまな形でつくっている。